

第2回汽水湖汚濁メカニズム解明調査ワーキンググループの指摘事項について

汚濁負荷量について

指摘事項	対応
自然系の算出について、原単位×降雨量の場合、市街地面積が増えても人口が増えていないだろうから、実態に即していないと思う(議事録 P3、中村委員)。	引き続き検証をすすめる(資料5参照)
畜産系の原単位について、実態を表していないと思う。調査等をしておくべきだと思う(議事録 P3、清家委員)。	
事業系の負荷量積算方法について、分かりやすい表現にした方がよい(議事録 P3、山室委員)	資料を修正(資料1 - 3参照)
L-Q 式による負荷量と原単位法による負荷量を比較した方がよい(議事録 P7、山室委員)	H20 年度分について比較を実施(資料1 - 4参照)。

難分解性有機物について

指摘事項	対応
D-COD と DOC の冬季の上昇傾向、COD /TOC 比の上昇傾向について確認したい(議事録 P1、石飛委員)。	次回以降、対応。
経年変化のグラフを示す際、水温や塩分についても併せて示してほしい(議事録 P3、中村委員)。	

収支について

指摘事項	対応
実測の収支計算期間について、モデルの収支計算期間と合わせて示して欲しい。また、季節毎に示して欲しい(議事録 P7、中村委員)。	次回以降、対応。

NP 比について

指摘事項	対応
NP 比について斐伊川は減少傾向、山居川は増加傾向である原因について確認したい(議事録 P2、中田委員)。	毎月データについて確認(資料1 - 5参照)。

プランクトンについて

指摘事項	対応
プランクトンの炭素量(増減傾向など)について気になる(議事録 P1、中田委員)。	計算式について、確認した(資料1 - 6参照)。

シミュレーションモデルについて

指摘事項	対応
水平分割について、大橋川はどのように分割しているのか確認したい(議事録 P5、中田委員)。	流下方向は 400m間隔に 18 分割、横方向は 100~400m 幅で 1 列、鉛直方向は 13 層に区分している(資料4参照)。
塩分の再現性について、浅いところと深いところを分けて示して欲しい(議事録 P6、石飛委員)。	再現性の相関図について、上層と下層を分けて作成した。(資料4参照)
水温について、計算値が少し高い。詳細を確認したい(議事録 P5、中田委員)。	下層の計算値が 5 ~ 10 月に実測値に比べ高くなる(資料4参照)。
塩分について、計算値が少し高い。詳細を確認したい(議事録 P5、中田委員)。	上層の計算値が 12 ~ 2 月に高くなる(資料4参照)。
湖心下層の塩分について、降雨出水に伴い中海から塩水が入ると思う。計算ではどうなっているのか確認したい(議事録 P6、中田委員)。	上層塩分が大幅に低下した観測日について再現性を整理した結果、計算結果は上下層の濃度差を表しているものの、上層の方が下層に比べ再現が劣っている場合が多い(資料4参照)。
COD について、分解係数などが上手く設定できていないと思う(議事録 P5、中田委員)。	COD の実測値のうち D-COD が約 7 割を占めており、D-COD を年間通して維持するためには分解速度を小さく設定する必要があるが、小さくし過ぎると酸素消費速度が小さくなり、溶存酸素の再現性が低下し、底質からのりんの溶出も小さくなる(資料4参照)。
全りんの収支について、底質からの溶出量が少ないと思う。詳細について確認したい(議事録 P5、中田委員)(議事録 P6、清家委員)。	次回以降、対応。
酸素の挙動と、その際の塩分挙動について確認したい(議事録 P5、山室委員)。	次回以降、対応。
全窒素について、脱窒が起きている場所をどこに設定しているのか確認したい(議事録 P6、山室委員)。	底泥中の酸化・還元境界層(底泥は湖底面から深さ 10cm の間を 0.02~3.5cm の厚さで 10 層に区分し計算している)。
昔の負荷量を入れ、長期的傾向を見るとよい(議事録 P7、石飛委員)。	検討をすすめる(資料5参照)